嵐山

令和5年1月1日

京都市右京区嵯峨
天竜寺北造路町17番地
社会福祉法人　嵐 山 寮
TEL（075）871 − 0032
FAX（075）861 − 9157
振 替 口 座　京 都 ⑧ 17632
発 行 人　寺 本 演 夫
編 集 人　編 集 委 員

題字は嵐山寮創設者　亀山弘應の真筆を集字したものです

設立理念
感謝の心と相互敬愛を表わす合掌の生活の中で、ご利用者一人ひとりが、
自らの長寿生活を楽しみながら暮らすための環境づくりをモットーとします。

らんざん
1
January 2023
No. 36

INDEX

1 雪の嵐山
2 新年挨拶　理事長　寺本演夫
3 新年挨拶　総合施設長　山岸孝啓
4 News　採用活動チーム RUN
5 News　嵐山寮建替えプロジェクト
6 うたの特集　コロナ報告 / 今後の取り組み
7 うたの特集　看取りを考える「研修会」
7 うたの特集　認知症サポーター「養成講座」
8 うたの特集　運営推進会議主催「公開講座」
8 寄附金・後援会費・広報誌送付について

© 2023 Yukihiro komura

新年のご挨拶

寒い日のラーメン一杯の“センチメンタル”

理事長　寺本　演夫

新年明けましておめでとうございます。

今年は新型コロナも克服し無事に1年が過ごせますよう切にお祈りいたします。

昨年は相当に痛めつけられました。クラスターも発生して、嵐山拠点・うたの拠点等に於いては事業継続が危ぶまれるという状況も肌で感じました。一旦、ウィルスが持ち込まれるとひとたまりもないと覚悟しておりましたが、その通りになってしまったのが第7波の流行でした。

今年はこの経験を教訓にして万全を期して頑張りたいと思います。

昨年11月の新聞に林家木久扇さんについて面白いことが書いてありました。かいつまんでご紹介すると、ラーメン好きが転じてラーメン店を事業展開したそうです。日中の国交が回復した50年ほど前のことです。中国進出を夢見て考えたキャッチフレーズは〈日中友好はラーメンの割りばしから、割れば二本（日本）、折ればペキン（北京）だそうです。

日本でしか通じないダジャレでしょうが、ラーメン自体は世界を席巻するまでになりました。海外に日本とほぼ同数の１４０店舗を開くまでになり、昨年度の決算では過去最高益を計上する見通しだという。

笑点のメンバーはラーメンの在庫で倉庫から溢れそうとか、不味くて返品が凄いとか言っていますが、あれはみんな冗談のようです。

勿論昨今の円安の影響がある。側聞すると、日本発の海外のラーメンチェーンは一杯2、０００円～2、５００円が相場といわれているらしい。千円札でお釣りがくるラーメンを食べていることが、不思議に感じられる。この値段の差はどう考えればよいのか？海外よりお得に食べられて幸せなのか、それとも日本が豊かでなくなったことの証しか。世界経済から置いてけぼりにされたような心持になる。

東京育ちの詩人、清水哲男さんに一句ある。〈ラーメンに星降る夜の高円寺〉。日本の現状はともかく、寒い日に割りばしを二本（日本）にするときの幸せは永遠だろう。

こんな風に想いを馳せながら、しんみりしている今日この頃です。

今年はコロナも克服し、もう少しすっきりとした一年になってもらいたいものです。

今年も嵐山寮をよろしくお願い申し上げ新年の挨拶といたします。

新年のご挨拶

コロナウイルス対策のなかで嬉しいお話です

総合施設長　山岸　孝啓

新年あけましておめでとうございます。本年が皆々様にとりまして、よりよい一年になりますことをご祈念申し上げます。日頃より法人各施設・事業所の運営にさまざまなご理解とご協力を賜りまして誠にありがとうございます。

ご承知のように私たちの日常生活で色々な影響をうける新型コロナウイルスが発生して今年1月で3年になります。3年にもなりますが未だ職場や日常生活でさまざまな支障が大きく、以前の平常な生活を取り戻したい、と心底思います。

嵐山寮ご利用者は高齢者の方で、とりわけ要介護状態の人の多い環境ですので、入所施設では特にコロナウイルス発生状況に応じて面会制限、外出自粛等規制をせざるを得ない状況が長期間続いています。生活施設としては大変心苦しいのですが感染症対策をして、安全な環境づくりを最優先にしています。幸いご本人ご家族も安心してもらえるための対策にご理解をしていただいており心より感謝しています。一般的な老後生活での不安材料は「健康の維持」「自身や家族の介護問題」「認知症の心配」「孤独」「お金」が主なる事と思われます。正しく私たちの仕事内容は不安材料の解消に直結するもので、心して今後も対応させていただきます。

法人理念で「個々の方が自らの長寿生活を楽しみながら暮らすための環境づくりをします」があります。「人生を楽しんでいただくための環境づくり」が重要で人は環境に大きな影響を受けることを肝に銘じ最適な人的、物理的環境を整えます。

その中で、大変嬉しい励みになる事がありました。特別養護老人ホームご利用者で重介護の必要な方が「私の今までの人生の中で現在の生活が一番しあわせです」と言っていただいていることです。色々な過去のご苦労や状態も関係するでしょうが、とても施設として職員として大きな励みになることです。介護を主にした生活支援を通して色々な信頼関係が形成され定着して、今の生活が安全、安心な居場所として評価していただけているのでしょう。職員の努力や関わりを称えたいです。これからも、生活する皆様が安心して暮らせる施設の環境づくりや地域社会のための一役を果たす事が社会福祉法人嵐山寮の使命です。

少しづつ出会う機会が増え、顔を見て話せるコミュニケーションの時間が戻る事を期待しています。どうか今年もよろしくお願い申し上げます。

News

【採用活動チームRUN発足について】

人材スキルアップ支援センター　センター長　田中　浩二

広報誌《嵐山らんざん》№34にてご紹介させていただきました人材スキルアップ支援センターは、（以下「センター」と記載します。）人材の『確保』『定着』『育成』の3本柱で、人と向き合う部署として日々奮闘しております。

介護業界の離職率が平均14％といわれる中、幸い当法人の職員離職率は5％台で、比較的順調に推移して来ておりますが、毎年退職者が出てしまうのも事実でございます。

採用しても定着が安定しない限り、当法人の人材には繋がりませんので、私どもセンターにおける目下の課題は『定着』にあります。

当法人の事業方針には「未来を託せる法人や職場であるかどうか、また仕事の働きがいと働きやすさの両面の充足が重要」と記載がございますが、令和3年12月、職員の定着に向けた新しい取り組みとしてセンター内に『採用活動チームRUN』を立ち上げました。

RUNとは嵐山寮の嵐（あらし＝〝らん〟）をローマ字表記にしたもので、勇往邁進、目的や目標に向かって前進する、〝走る〟という思いを込めております。

現在、RUNで活動する職員の年齢構成は20代から40代、サポートメンバーを合わせると20名まで拡大しておりますが、RUNでは職員自身にもスポットライトを当て、職員が持っている個性や能力を活かし、日常業務から少し離れた採用活動や、定着に向けた新たな提案等が行える場となることを期待しており、《就職フェア同行チーム》・《SNS発信チーム》・《若手向上セミナー（上位認証法人の若手職員が集い福祉の魅力を発信》等、3つのチームで活動しております。

例えば、若手職員を中心に構成した《就職フェア同行チーム》では、フェアに参加した学生が実際に採用に至ることも多く、職員にとっては入職前から内定者との関係性が生まれることもあって、自身の成功体験として更なる活動意欲の向上に繋がっております。

また、裏方で手伝えることがあればと応募した職員で、美術が得意な職員には嵐山寮webサイトのデザイン更新や、採用パンフレットの刷新に向けて活動してもらっています。

当法人は、右京区内で4拠点・職員350名を誇る多様な世代が活躍している社会福祉法人ですが、センターでは、この強みを最大限に生かしながら、職員の働きやすい環境づくり、多様な働き方への対応等、職員が一日でも永く働き続けられるよう、様々な提案をして参りたいと考えております。そして、60有余年、先代から受け継がれてきた「人を大切にする伝統」を、これからも守り続けていくことが、私たちの使命だと考えております。

最後に、センターの活動については、定期的に嵐山寮webサイトやSNS、本誌等にてご報告をさせていただきますのでどうぞご覧くださいませ。今後ともよろしくお願い申し上げます。

News

「嵐山寮建替えプロジェクトチーム」が立ち上がりました

嵐山拠点　施設部・在宅部　部長　井垣　潤也

令和四年四月より「嵐山寮建替えプロジェクトチーム」が発足されました。

嵐山寮創設から六七年目の令和四年。

昭和三十年にこの嵐山拠点から始まった嵐山寮は、この期間、昭和六〇年の特別養護老人ホーム、平成四年のデイサービスセンター等の増改築を行いながら今日に至っています。

ただ一番古い建物となる養護老人ホーム棟では、耐震化が未済で老朽化の進行が著しく、且つ２人部屋などのプライバシー問題なども改善できていない状況でございます。

したがって今後の将来を見据えた嵐山拠点の在り方が今、喫緊の課題となっています。

そこで、このたび理事会の承認を受け、今年度より嵐山拠点における建替えプロジェクトチームを立ち上げることといたしました。

今後、チーム員を中心としながらも嵐山寮で勤務する全職員が嵐山拠点の在り方を「我が事」と捉え、多種多様な取り組みをおこなってまいります。

ただ、職員の取り組みだけでは嵐山寮の役割を果たすことはできません。

嵐山寮の設立理念でもある「ご利用者が楽しいと思える暮らし」という理念を実現するため、ご利用者の思いを聞き、自立支援に向けた取り組みが求められています。

また嵐山拠点は日本有数の観光都市京都を代表する観光地「嵐山」にございます。

嵐山寮は地域とともに歩んできた長い歴史があり、近隣の寺社仏閣さん、商店街さん、地域の皆様との連携も欠かすことができません。

したがってこのプロジェクトチームにおいても勤務する職員のみならず、サービスご利用者、地域の方など皆さんと「地域における法人の果たすべき役割」を検討できる機会を設けられるよう取り組んでまいります。

今後、工事期間となりますと、大規模かつ長期の工期となることで、近隣住民の方、観光にお越しいただく方々、近隣商店街の方々への騒音・車両通行などの大変なご迷惑も予想されます。

十分に皆様へのご説明の機会を設け、竣工後は地域共生の社会資源としての役割を担ってまいりますので、何卒ご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

今年度のコロナ感染状況報告と今後の取り組みについて

嵐山寮特別養護老人ホームうたの　課長　小山　恵美子

令和4年8月下旬から9月上旬にかけて、うたの拠点特養のあるフロアで、多くの職員と利用者がコロナウィルス陽性となりました。

うたの拠点では、平時から定期的な感染対策会議にて対応を確認及び更新するなど、感染予防に取り組んできましたが、この期間においては全職員が一丸となりコロナに立ち向かいました。第一には施設内で療養されることとなったご利用者の命を守ることでしたが、同時に施設内での感染拡大を防ぐこと、そこで働く職員や家族の安心安全を守ることに奔走しました。

まず、ご利用者の命を守ることですが、時期的にはコロナ第七派の最中で、市内の病床にも余裕が無く、高齢で基礎疾患のあるご利用者でも入院が困難な状況でした。救急隊が到着しても搬送先がなかなか決まらない、結果として入院できないということもありました。そんな時には、救急隊員とご家族様を電話で繋いで直接話をしていただきました。このことは、ご家族様に少しでもリアルな状況を知っていただくことと、ご家族様の希望などを直接的に訴えていただく機会としても良かったと思います。また、このような状況において、嘱託医の先生に多大なご協力をいただきました。時間外や休日での施設への往診、陽性者への診察や必要な届け出の作成、ご家族への病状の説明など、常に相談ができて迅速にご対応していただけましたことは非常に心強いものでした。同時に、「右京医師会・京都市高齢者施設等新型コロナ医療コーディネートチーム」のご協力のもと、地域の医師と看護師に来所いただき、必要な投薬などの処置をしていただきました。

そして、日々の感染対策と拡大防止においては、日頃の取り組みの実践のみならず「京都府新型コロナウィルス感染症専門サポートチーム」に来所いただき、実際の感染エリアを見た上での即活用できる具体的なアドバイスをたくさんいただいたことで、より効果的な対策を実施することができました。

WEB 会議システムを利用して感染エリアと事務所等を映像でつなぎ、顔を見ながらの情報共有をしている様子

また、感染エリアで働く職員についてですが、職員にも当然ながら家族があり、乳幼児や介護が必要な親等と同居している者もいます。職員本人が希望すればホテルに宿泊しながらの業務も可能であり、宿泊費用は公的な補助のみならず、法人独自としても補助を行う規程を整備しています。今回も数名の職員がこの仕組みを利用しました。感染エリアで勤務する職員は、出勤経路を分けたり、休憩や更衣もエリア内で行い、徹底した消毒やガウンテクニックを実施するなど、緊張状態での勤務の中、拡大防止に尽力してくれました。

特別養護老人ホームという高齢者の生活の場において、施設内で感染が起こると、気軽に家族に会うことも困難になるなど、途端に日常が失われてしまいます。高齢者にとっての1日1日の重みを大切にし、安心して生活していただける環境でありたいと切に感じます。うたの拠点では、施設内での感染が終息し、市内でも感染者数が落ち着いた10月の上旬より面会を再開いたしました。また、感染対策を実施しながら、11月には創立11周年記念イベントを実施しています。今回の経験を踏まえ、事業継続計画もより具体的で活用できるものになりました。今後は、感染予防とご利用者それぞれの日常や楽しみを継続することの両立を目指し、何か一つでも「今日も楽しかったな」と感じていただける毎日であるよう、創意工夫しながらコロナ感染予防を継続して進めて参ります。

現場でアドバイスをくださる京都府新型コロナウィルス感染症専門サポートチームの藤田直久先生（写真手前）

最後になりましたが、この度のクラスターにおいて様々なご支援をいただきました関係機関や団体の皆様、感染対策にご理解ご協力いただきましたご利用者とご家族の皆様、真夏にフルガウンで必死に感染対策を行いながら介護・看護をしてくれた職員と、それをさまざまな形で支えてくれた全職員の皆様、本当にありがとうございました。心より感謝申し上げます。

うたの特集

「看取りを考える」で入居者ご家族への研修会と面会を実施

嵐山寮特別養護老人ホームうたの　主任　相談員　山田　芳生

（中央）山岸総合施設長

令和4年10月9日（日）にうたの入所者家族の会「研修会」を開催しました。新型コロナウイルス感染症の長期化により、令和元年度に研修会を開催して以来約三年ぶりの開催となりました。今回は講師に柏木内科整形外科医院の柏木元実先生をお招きして「看取りを考える」をテーマに開催し、研修会当日には18名のご家族が参加されました。

国際的にみて、日本は病院での死亡率が高く、自宅で最期を迎えられる方は少ないこと、自宅で療養したいと考えている方が60％以上に上る反面、最後まで自宅で療養するのは難しいと感じておられる方が多いという現実を、データと体験談を交えてお話されました。「残された時間を有意義なものにする」「自分らしい最期を過ごす」ことを考えさせられる内容にご家族様からは「終末期の覚悟を改めて実感しました。」「最期をおくることまでが大変なことだと感じました。」「家族のことを思いながら聞いていました。」など多くのお声をいただきました。研修に立ち会った職員も、大切な時間を共に過ごしていることを改めて実感できる機会となりました。研修終了後には感染対策を徹底した上で、参加されたご家族とご入居者が直接お会いできる時間も設け、一緒に過ごしていただきました。

講師：柏木元実医師

うたの特集

認知症サポーター養成講座を開催しました

嵐山寮居宅介護支援事業所うたの　主任介護支援専門員　柴田　裕子

新型コロナ感染症が少し落ち着いた令和4年10月15日（土）嵐山寮居宅介護支援事業所うたのと嵐山寮うたの短期入所生活介護主催の認知症サポーター養成講座を開催いたしました。うたの居宅とショートステイご利用のご家族8名に参加いただき、事務職員3名を加え、認知症についての講義の後、2つのグループに分かれ、座談会を行いました。実際に認知症のご家族を介護されている方の経験談に他のご家族や職員は共感を覚え、自らの介護を振り返る良い機会となりました。

座談会の様子　介護支援専門員とご家族

参加されたご家族からは、「同じように介護にご苦労されているお話が聞けて良かった。」「私はまだまだだなと感じた。」「もっと時間が欲しかった。また、参加したい。」などのお声や職員からは「ご家族が大変な思いをされていることを聞き、少しでもご利用者やご家族の役に立てるよう勉強していきたい。」といった感想をいただいています。

今後もこのような交流の機会が持てればと考えております。今回は、コロナ感染対策のため小規模での開催となりましたが、次回開催時は今回ご参加いただけなかった皆様にもご案内させていただきますので、ご参加いただければ幸いです。

今後とも、よろしくお願いいたします。

うたの運営推進会議主催の公開講座を開催しました

うたの地域活動部会　委員長　嵐山寮居宅介護支援事業所うたの　係長　中島　成之

講師：白川作業療法士・馬場作業療法士

令和4年11月15日（火）、地域の皆さまを対象に「健康測定を通して、自分の健康状態を知ろう！」をテーマに、当施設コミュニティースペース「地域交流ホール」にて、うたの運営推進会議主催の公開講座を開催いたしました。

当施設では施設運営の透明性の確保と地域に開かれたサービスとすることで質の確保を図ることを目的として、3か月ごとに地域の関係団体の皆さま・高齢サポート・ご利用者家族の会さまにお越し頂き運営推進会議を開催しておりますが、本講座はこの会議内で企画したものです。

当日は施設職員による健康測定（立ち上がりテスト・歩幅テスト・指輪っかテスト・握力測定など）を行い、その結果について職員の作業療法士が解説し、日頃の健康づくりに役立てていただければとお伝えしました。ご参加くださった皆さまからは「思ったより、結果がよかったわ」「健康のために、もっと運動しなあかんなぁ」など率直なご意見・ご感想を賜りました。これからも宇多野地域の社会資源の一つとしてお考えいただけるよう、皆さまにご意見を伺いながら日々活動を模索して参りたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

2ステップテスト（歩幅判定）の様子

広報誌『嵐山（らんざん）』送付について

拝啓　平素は当法人の事業運営に格別のお引き立てを賜り、厚く御礼申し上げます。

さてこの度、広報誌『嵐山』を発行いたしましたので、送付させていただきます。コロナ禍において職員一丸となって感染対策に努め、法人の事業運営においては健全かつ順調に推移しており、これもひとえに皆様方のご理解とご協力の賜物と深く感謝いたしております。

今後も設立理念である「感謝の心と相互敬愛を表す合掌の生活の中で、ご利用者一人ひとりが、自らの長寿生活を楽しみながら暮らすための環境づくり」と、地域社会における高齢者福祉の充実と発展のため、一層の努力をしていく所存でございます。今後とも皆様方のご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

また、当法人では皆様方からの寄附および後援会費を受け付けております。後援会費は一口五千円となっております。納入の際は下記内容をご確認の上、同封「払込取扱票（赤色）」をご利用下さい。寄附等の納入は任意ですので、不要な方はご面倒ですが破棄いただきますようお願い申し上げます。なお、「振替払込請求書兼受領証」をもって受領書に代えさせていただきます。

敬具

社会福祉法人 嵐山寮　理事長　寺本 演夫

（2022年1月17日～ゆうちょ料金新設のお知らせ抜粋）

現金でお支払いの場合には、料金が加算されます。詳しくはゆうちょ銀行ホームページをご確認下さい。

ゆうちょの通帳またはキャッシュカードをご用意のうえ、口座からのお支払いがおトクです！

＊1：駅・ショッピングセンター・ファミリーマート等に設置しているATMでは払込書による払込みはお取り扱いできません。
＊2：公共料金や公庫への払込みなど、払込みの種別によっては料金が異なる場合があります。
＊3：ゆうちょの総合口座通帳またはキャッシュカードが必要です。また、ATMでの通帳のご利用にはキャッシュカードのお申し込みが必要です。